金沢龍谷高等学校 中等部
中等部通信
junior high school communication
vol. 21
令和４年９月28日（水）

学びの個別最適化 ⑤

「２０世紀の学習者に求められたもの」 を続けます。

■問題点４　【情熱と興味を開拓する余地がない】

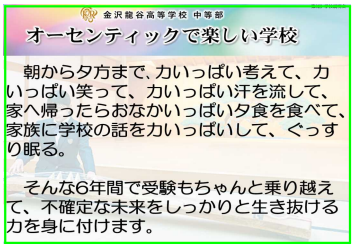
私たちは非常に標準化したシステムのもと、クラス全員が同じ方法で同じ事柄を同時に学ばなければなりません。これは人間の本質を尊重していません。人間であること、とは、私たち一人ひとりがユニークな存在で、それぞれの情熱と興味を持っていることです。しかし、学校は子どもたちが自分の情熱を見つけ、それを発展させていく手助けをしているでしょうか？既存の教育システムは、子どもが自分の人生に次のような質問を投げかけることを許すほどの余裕すらもっていないようです。自分って何が得意だろう？どんなことをしたいんだろう？どんな風に世界に適合していったらいいんだろう？システムはこんなこと気にも留めないようです。昔ながらの伝統的な学校制度では失敗した非常に有能な人たちがたくさんいます。幸いにも、彼らは（学校システムの）自分たちの失敗を克服できましたが、誰もができるわけではありません。どれほどの才能があり、どれくらいの可能性を持っているのかを認識する対策は何もありません。

■問題点５　【多様な学び方】

私たちは、それぞれの学び方も一人ひとり異なります。学びに必要な時間の長さ、また自分にとっての最善のツールやリソースも人それぞれ異なります。しかし、現行のシステムの上では、そのような違いに対応する余地はありません。仮にあなたが何かを学ぶのに人よりも時間がかかったとしたら、あなたは落ちこぼれとみなされます。たとえそれが、追いつくのにもう少し時間が必要だっただけだとしても。

■問題点６　【講義（授業）】

今の教育制度では、子どもたちは１日５時間以上の講義（授業）を受けています。しかし、授業には大きな問題がいくつかあります。アメリカの教育者（カーンアカデミー）のサルカーン氏は「授業を受ける」という行為は「根本的に人間性を奪われるような体験」と表現しています。教室の３０人の子どもたちは唇に指を置いたまま、お互いに対話することは許されません。どの授業においても、生徒のレベルはさまざまです。先生がどんな風に教えようと、勉強が進んでいるがために退屈しているか、逆についていけずに途方に暮れている生徒が存在します。インターネットとデジタルメディアのおかげで、子どもたちは指先を通して世界のすべての情報を持っています。テクノロジーは誰でも何かを学ぶことを可能にしました。しかし、システムは制御を失う恐れから、これらの素晴らしいリソースを活用していません。産業化時代に発展した私たちの教育制度は今や時代遅れになり、効果がありません。現代の世界に対応すべく子どもたちを準備させたいと思ったら効果的で魅力的な学習を望むのであれば間違いなく現行の教育制度を根本的に変える必要があります。



さらに、紹介を続けます。
太田美由紀さんという編集者が書かれたものです。

学力によって切り分けられ、均一化した集団の中で枠から飛び出ることは許されない。空気を読みながら枠から出ないよう息を殺すことを覚える。時間を厳守し、指示通りに、文句を言わず、我慢して、ひたすら効率よく仕上げる人間を量産する。何かイレギュラーな場面に立たされると必ず大人に確認をとる。そんな「大人にとって都合のいい子」はつまり、「古い企業社会に都合よくプログラミングされた人間」ではないか。そのように育ってしまった人間ができる仕事は、遅かれ早かれ、すべてAIに取って代わられるだろう。

予定では、今回で『学びの最適化』シリーズを終える予定でしたが、もうしばらく延長します。
私の36年間の公立中学校で学んだことも含めて、再度、分析したいと思います。